

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名： **医学部保健学科**
部局長名： **竹田 芳弘**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・タグ機能付き映像アノテーションシステムによる授業の構築およびタグ情報によるシミュレーション演習・実験の双方向(教員・学生)的評価の充実を図る。</p> <p>・4学期制により可能となる留学や国内外研修・インターンシップを推進し、学生が行った内容結果については講義科目として評価、認証する。</p> <p>・学習達成度の評価に用いているWeb based testing (WBT)、CBTを更に発展させ、臨床実習前の要件としての基礎専門知識の到達レベルの評価に用いる。さらに国家試験レベルのWBT、CBTにより学生が自主学習として活用できるように整備し、国家試験における高合格率の維持に努める。</p> <p>・保健学科で実施している多数の入試方法の改善を目指すため各入試方法毎の動向を調査、検討する。グローバル化の一環として国際バカロレア入試を推進する。</p>	<p>・アノテーションシステム導入の結果、演習・実験の映像教材のタグ情報付きアーカイブやディープラーニングのためのグループディスカッションに活用することができた。さらに、過去映像との比較により、タグ情報をフィードバックさせ、知識・技術の習得向上を図った。</p> <p>今後、ローカルサーバーシステムへと機能発展させたものを併用し、ODnet環境がなくても小規模な映像アノテーションを可能とした利用を拡充するために、それぞれの専攻の目的に合わせたソフトウェアのカスタマイズの検討を始めている。</p> <p>今後、インターネットやタブレットが身近なものとして育ってきた学生の提案も受け入れ、新しいカリキュラムの充実を図っていく。</p> <p>実習前や実習後におけるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)の導入により学習の充実を図った。</p> <p>・留学や学外での研修を可能とする学期(時間割)を設定し、海外留学やインターンシップ、ボランティアプログラムにより学生の研修を行った。授業科目(Global Practice of the Health Science)にて、看護学専攻2年生5人(韓国1、米国1、カナダ1、ベトナム1、カンボジア1)を認定した。授業科目(Exploratory Practice)では、Exploratory Practice I(2年生)で25人、Exploratory Practice II(3年生)で1人、Exploratory Practice III(3年生)で2人を評価、認証した。授業科目での認証をすることにより学生の海外留学、インターンシップ、ボランティア活動への意欲、関心が高まった。</p> <p>・WBT、CBTを充実させ臨床実習前にも行い、基礎専門知識の到達度を評価した。さらに国家試験に対応するために4年生においても自主学習も含めてWBT、CBTによる知識の確認を行った。</p> <p>・応募者数、合格者数が減少している専門高校・総合学科卒業生入学試験について、関連する高校へのアンケート調査を行い、今後の対応の参考とした。国際バカロレア入試を昨年度に引き続いて行い、3人の合格者を選出した。</p>
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 全学の組織目標との関連
<p>60分授業・4学期制の円滑な運用による学びの強化 実践型社会連携教育の推進</p>	<p>60分授業・4学期制導入による教育内容や教育方法の改善を行い、学生の学びを強化した。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>入試(前期・後期・推薦)の志願倍率 国際バカロレア入試の志願者数 看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率 卒業生の就職率</p>	<p>入試志望倍率 前期:2.1・後期:8.6・推薦:4.8 国際バカロレア入試の志願者数 4人 国家試験合格率 看護師:100%、保健師:100%、診療放射線技師:85.4%、臨床検査技師:95.0% 卒業生の就職率 看護学専攻:100% 放射線技術科学専攻:100% 検査技術科学専攻:100%</p>
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・保健学科の研究領域については、15保健学研究科にまとめて記した。</p>	
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を推進するために外国の大学との交流を行い、相互交流を推進する。 高校生向けに「保健学研究科オープンフォーラム」を開催し高大連携を推進する。 高校生に対して「保健学科長と語る会」を随時開催する。 岡山大学附属中学校の生徒に対する体験学習を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾の高雄医科大学、長庚大学及びミャンマーのヤンゴン看護大学、タイのシーマハサラカム大学と交流を行い、相互交流を推進した。 11月には岡山大学病院看護部・看護研究・教育センターが実施する「ミャンマー・ヤンゴン看護大学教員の看護実践人育成プログラム」の受入れ教員2人に対する研修に協力した。 GPが開設した、海外渡航入カシステムへ学生が登録するように促した。同時に、国際関係WGにおいて、海外渡航中の危機管理についても保健学科での連絡・対応体制を整えた。 派遣学生数は、チーム医療演習では40人、タイ東北研修で5人、Global Practice of Health Scienceで5人の計50人を派遣した。受入れ学生は、大学院博士後期課程としてミャンマーより国費留学生2人、POST-O-NECUSで1人、保健学研究科・保健学科短期研修生としてタイのシーマハサラカム大学より8人、中国より保健学科研究生1人の12人を受け入れた。今後、派遣人数を積極的に増やすとともに、さらに新たな外国大学との交流を推進する。 危機管理の面においては、海外渡航入カシステムを用いて、部局のプログラム以外に私事渡航する学生数がどのくらいであるか情報収集を行う必要がある。 「大学院保健学研究科オープンフォーラム 2017」では「研究の魅力と将来の夢を熱く語る」というテーマで10月21日に実施し、研究科からのメッセージ、大学院生によるパネルディスカッション、ポスターセッション、大学院進学相談、研究室訪問を行い、高校生、学部生、大学院生、社会人が多数出席した。 「保健学科長と語る会」を高校生の都合に合わせて随時開催し、7校の学生に対応し、高校生からの質問に答えることで保健学科の魅力を変えた。 高校生大学訪問は昨年度と同様に行い、11高校、207人が参加し、模擬講義、演習を受けた。
③-2 全学の組織目標との関連	
グローバル・パートナーズと協働して学生派遣・留学生受入れプログラムを強化 高大接続の検討	国際交流による数値目標の達成 高大接続
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
国際交流による派遣者数、受入数 「保健学研究科オープンフォーラム」、「保健学科長と語る会」の参加者数	国際交流による派遣者数:50名 受入れ数:12名 「保健学研究科オープンフォーラム」の参加者数:164名 「保健学科長と語る会」の参加者数:11名
④管理運営領域	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
保健学科の管理運営領域については、15保健学研究科にまとめて記した。	
④-2 全学の組織目標との関連	④-2 大学全体への貢献
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
【総括記述欄】	
<ul style="list-style-type: none"> 全体的にみて今年度の目標はおおむね達成できたと考える。教育領域では60分授業・4学期制で可能となった教育システムの最適化により、アノテーションシステム導入によるディープラーニングなどの学習支援や海外留学、インターンシップ、ボランティアプログラムによる国際交流、学生主導の社会貢献も進めることができた。来年度も引き続いて推進していきたいと考えている。 	